

2021年 7月 1日

需要家 各位

千葉アクア生コンクリート協同組合



暑中期における生コンクリートの出荷について

近年の地球温暖化により、千葉県下においても最高気温が35℃以上の猛暑日が多くなってきており、コンクリート温度はこれらの影響と運搬時の直射日光やセメントの水和反応により上昇して、現場荷卸し時に35℃を超える事態が憂慮されております。

弊協組の加盟工場では、コンクリートの荷卸し時の上限温度を「38℃以下」として、社内規定の改定を行い、かつJIS認証機関の承認を受け出荷できる体制を整えています。

しかしながら、現場受入基準が「35℃以下」と指定されている場合、荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超え38℃以下のJIS適合品であっても現場受入を拒否されることになり、納入現場に対し多大なご迷惑をおかけすることが予想されます。

つきましては、暑中期における生コンクリートの出荷対応につきましては、以下1~3に示す事項を条件とし、対応させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

1. 荷卸し時のコンクリート温度35℃以下を指定されて、納入予定日に35℃を超えると予想される場合には出荷をご辞退させていただきます。
2. 上記1.の条件ながら、どうしても納入を希望され、現場受入れ検査において、コンクリート温度のみ不適合で持ち帰りを指示された場合には「契約取消コン」として扱い、商品代相当額と取消料をご負担頂きます。
3. コンクリート温度低減のために追加対策を希望された場合には、この対応可否を含め協議することとし、これに係る費用につきましては需要家様にてご負担頂きたいと思っております。

但し、この対策を講じた場合であっても、コンクリート温度35℃以下を保証するものではありません。

注) 国土交通省大臣認定品のコンクリート温度規定値は、認定取得時の値を変更することはできません。

需要家の皆様には、近年の気象環境の変化をご賢察頂き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

【参考資料】

第21回(2021年)生コン技術大会 研究発表論文集(全国生コンクリート工業連合会発行)
「20℃及び38℃環境下におけるスランプ経時変化および凝結特性の比較に基づく暑中コンクリートのフレッシュ性状推定評価」